URL　http://www.label-tokyo.com/　　Eメール　tlpa_1966@ka2.so-net.ne.jp

おかげ様で創刊 400 号を迎えました

# ラベルニュース

No401

平成 30 年 6 月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム委員会

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561　FAX(5821)6443

## 第５２回通常総会を開催

## 次世代引継ぎへの重要な一年に
## 組合員全員に参画意識を訴える

第 52 回通常総会は各議案がすべて承認される

第五十二回通常総会は五月二十二日(火)午後四時半より、日暮里の「ホテルラングウッド」に於いて開催され、各議案がすべて満場一致で可決承認されました

高橋理事の司会で定数を満たしているため総会は設立する旨が宣言され、議長に渡邉正一顧問を選出して議案の審議に入りました。

第一号議案・平成二十九年度事業報告及び決算関係書類承認の件は、本間敏道専務理事が原案を朗読し、続いて森田賢理事が監査報告(代理)を行い、満場一致で可決承認されました。

第二号議案・平成三十年度事業計画、収支予算並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件では、本間専務理事が事業計画と収支予算案について説明し、満場一致で承認されました。

第三号議案・平成三十年度における借り入れ金額の最高限度額決定の件についても、従来どおり二千万円としたいと説明があり、第四号議案・役員報酬決定の件でも従来どおり支給しない旨を説明し、いずれも満場一致で可決承認されました

総会終了後、別室に於いて協賛会を交えた恒例の懇親会が本間専務理事の司会で開かれ、平山理事長は「今年度は組合活動の活性化、組合員の参加機会の増進を狙って、五つある委員会に組合員全員を割り振り参加していただくこととしました。私どもに限らずどの組合でもその存在意義が問われ、参加意識が減衰する中、我々は何とかラベル組合に参加していて良かったと皆さんに思われるような組織に成長したいと考えております。組合員全員参加により、より多くのご意見を集め新たな挑戦の種を見つけて行きたいと思います。どうぞ今年度も皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻をお願い致します」と挨拶しました。

さらに「七月二十七日に開催される第六十回年次大会ＩＧＡＳ大会がビックサイトで開催されますので、一人でも多くのご参加をお願いいたします」と協力をお願いしました。

ご来賓の挨拶では。初めに東京都中小企業団体中央会の橋北隆総務課長が「来年一月三十日、三十一日の二日間第二回組合まつりを開催しますので、是非とも出展して組合のＰＲをお願いしたいと」挨拶しました。

続いて協賛会の西尾弘之会長が「二〇二〇のオリンピック、パラリンピック、そして来年のラグビーワールドカップに向けての特需に期待したい」と挨拶しました。

山本相談役の音頭で全員で乾杯し、和やかな歓談が繰り広げられました。

## 平成三十年度事業計画

### ■技術・環境対策委員会

新技術、新商品の積極的な開発と環境問題、リサイ

クル化に取組む
①ラベル関連ミニ機材展の開催
②ＲＰＦ化によるリサイクル化事業のさらなる普及・啓蒙
③製版技術のＣＴＰ化による進歩に遅れないための版や刃型などの使用方法についての勉強会の実施
④デジタルプリンターの将来性と課題について検討する

**■教育・経営委員会**

経営者と従業員の意識改革と、資質の向上を目的にした各種事業を実施する。
①人材の育成を目指した、経営者、従業員への教育支援（業界知識の取得支援）
②環境対応へのシール・印刷グリーンプリンティング（ＧＰ）認定取得支援
③小規模・零細企業向けの簡易版事業継続計画（ＢＣＰ）の推進

**■広報・情報システム化委員会**

組合員に対し迅速な情報の提供と、組合事業の広報活動を積極的に行い、多様な情報化時代への対応をはかる。
①組合機関紙『ラベルニュース』のよりいっそうの紙面充実をはかる。
②組合ホームページの内容について、大幅な見直しとその活用方法の研究
③国や東京都などの金融情報、助成金情報の迅速な提供をはかる。

**■福利厚生委員会**

組合員および従業員の福利厚生に関する各種事業を行い、ゆとりと余裕のある労働環境構築に努める。
①従業員対象の働き方改革の徹底
②組合研修旅行の実施と組合員、従業員を対象にした福利厚生事業の充実
③育児休業や介護休業法など関連法規の周知徹底。

**■事業委員会**

組合財政の基盤強化のために、副資材の共同購入と新たな事業収入の道を探る。
①雄型用紙等、副資材等組合取扱商品の使用方法をホームページで紹介
②組合オリジナル取扱商品の調査・研究に努める。
③組合取扱商品の拡大とＰＲに努める

## 青年部が第34回通常総会

## 今年度も『企業』をテーマに多角的事業

青年部の第三十四回通常総会は、五月十八日(金)午後六時半より、秋葉原の「万世」に於いて開催され、各議案がすべて承認され、平成三十年度のスタートを切りました。

総会は藤井雅一理事の司会で、藤井崇徳部長の挨拶の後、各議案の審議に移りました。

総会であいさつする平山理事長

第一号議案・平成二十九年度事業報告、第二号議案・平成二十九年度会計報告、第三号議案・監査報告、第四号議案・平成三十年度事業計画、第五号議案・平成三十年度予算案、第六号議案・平成三十年度役員改選案のすべての議案が承認されました。

事業計画の基本方針は、昨季に続き「起業」をテーマにさらにデジタル効率化」をサブテーマに勉強会を開催するとしており、関東三協組だけでなく、印青連を通じた近い業種の方々、中央会を通じた他業種の方々を中心に様々なヒアリングを試み、新たな価値創造を探求し実践し、進化していくとなっている。

終了後懇親会に移り、平山理事長と，正札シールの清水貴久青年部長が来賓として挨拶し、本間専務理事の音頭で乾杯しました。

また、今回で青年部を卒業した幸特殊印刷の飯村健氏に卒業祝いの記念品が贈呈され、最後に飯村氏の音頭で中締めが行われお開きとなりました。

日本印刷産業連合会主催

## 「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト
## 優秀賞「一枚のラベル」 疋田賢司

「もう少し優しい色になりませんか？」デザイナーが低い声で言う。営業の私がオペレーターに伝えると「優しい色ってどんな色やねん！」オペレーターが叫ぶ。

朝からの立会はもう五時をとっくに過ぎている。これ以上時間がかかればもう紙が足りなくなる。たかがワインのラベルになんでこんなにこだわるのか、「この色のどこ気にいらんねん！」オペレーターがやけくそ気味に叫ぶ。それでももう一度インキを刷りだした。

少しのインキ配合で微妙に色は変わる。その辺の感覚を熟練の職人がインキのヘラで表現する。感性が左右する世界だ。

「これでどや！」オペレーターが出した。デザイナーが見つめる。しばし沈黙。この間合いが一番緊張する。「よしこれでいきましょう。OKです」

「やったぁ！」思わず声が出る。「よし！」私は小さくガッツポーズを作った。

やっとOKが出たら外はもう真っ暗。もう疲れ切ってへとへとだ。「もうこんな仕事二度とやりたくない」オペレーターが捨て台詞を言って帰った。

それから三週間くらい経った頃、何気なく朝刊を見て椅子から転げ落ちそうになった。なんとあの苦労して刷ったワインラベルのカラー写真が、新聞広告で全面に出ているのだ。感動で思わず涙が出そうになる。

寝起きの娘に朝刊を見せながら大声でいう。「これはお父さんが作ったラベルや！」まだ小学生の娘はキョトンとしている。

新聞紙をつかむように会社へ持っていき、オペレーターと喜びを分かち合う。『いいラベルや。デザインこれでいきましょう。がええ』あれだけ文句言っていたのに得意げに自慢している。時間をかけて作った印刷物ほど愛着が出る。苦労していい仕事をすればするほどたくさんの感動をもらえる。

たった一枚のラベルが我々を幸せにしてくれる。たくさんの人に見てもらえる印刷の仕事は楽しい。「仕事を楽しくするのは自分自身や！」ラベルを見ながら小さく独り言を言った。

### ※印刷と私　エッセイ・作文コンテストとは

一般社団法人日本印刷産業連合会・グリーンプリンティング認定事務局は、心温まる印刷の思い出、エピソードを寄せられた第一回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの受賞作品の募集を昨年主催しましたが、全国から七六〇作品の応募があり、小山薫堂審査委員長による「印刷と私」コンテスト審査委員会において、一七作品の受賞を決定しこのほど発表しましたが、ここに掲載したのは、大阪の前理事長の疋田賢司氏の作品です。

## ㈱ハセベが加入
### 協賛会が七十三社に

㈱ハセベが五月一日より協賛会に加入し、これで協賛会は七三社になりました。会社概要は次の通り。

㈱ハセベ
代表者・森田夏樹
資本金・一千万円
事業内容・印刷/製版機器及び資材の販売／コンピューター機器販売ネットワークソリューション
住所・〒一六五-〇〇二一
東京都中野区丸山二-五-十五
TEL三三三八-〇七四一
FAX三三三八-〇八九一

## ㈱天峰
### 代表者が変更

西支部の㈱天峰は、このほど代表者が左記のとおり変更となりました。

代表者・楠本秀樹
住所・埼玉県朝霞市幸町三-七-十四
TEL・〇四八四六三〇一二三

## いまさら人には聞けない常識について⑤

# 日本の年金制度は世界二十七ヶ国中、二十六位

日本の年金制度は、支給開始年齢が引き上げられ、七十歳になるのは時間の問題と言われているが、世界の年金事情はどうなっているのでしょうか。

世界の年金制度を総合的に判断して順位をつける「グローバル年金指数ランキング」によれば、日本は二〇一六年の調査で、二十七ヶ国中、何と二十六位という結果になっています。

この調査は「メルボルン・マーサーグローバル年金指数」と言い、世界の年金制度を横断的に比較した調査指数です。

今回で八回目の公表だが、初回の二〇〇九年、日本は十一カ国中、最下位。その後も常に下位グループで、今回初めてマレーシア、及びアルゼンチンも対象国に含まれ、全世界の人口の六〇％近くをカバーしているという。

その評価方法は、各国の公的、私的年金制度の積み立てや個人貯蓄などの年金以外の資産についても客観的に評価している。評価指数は四〇以上の質問項目から構成されています。

一位はデンマーク、二位はオランダ、三位は豪州で、フィンランド、スウェーデン、スイス、シンガポール、カナダ、チリ、アイルランド、英国、ドイツ、米国、フランス、マレーシア、ブラジル、ポーランド、オーストリア、イタリア、南アフリカ、インドネシア、韓国、中国、メキシコ、インド、日本、アルゼンチンの順で、何と韓国、中国より下なのです。

評価ランクはＡからＥまである（今回Ｅの対象国はなし）。デンマークとオランダが選ばれたＡは、「十分な給付を提供し、持続可能。高い健全性を持つ非常に優れた、堅牢な制度」という評価となっています。

日本が含まれるＤランクは「望ましい特性がいくつかあるが、対処すべき重要な弱点・欠落がある。改善しなければ、有効性・長期的な持続可能性が疑問視される」というものです。

日本について調査は、「制度の安定性はみられる」としながらも、「高齢化社会をめぐる課題に対する取り組みなど、引き続き改善の余地がある」と指摘して。

そのうえで、日本の制度を改善するための対策として挙げているのが、「家計貯蓄額の増加」「年金給付額の引き上げに伴う、所得代替率の改善」「退職給付の年金形式での受給を促す制約の導入」「平均余命の延びに伴う公的年金制度の支給開始年齢のさらなる引き上げ」「ＧＤＰに対する政府債務残高比の引き下げ」です。

日本の総合評価が低いのは、特に、十分性と持続性の評価が低いため。十分性に関しては、年金給付による所得代替率（現役世代の年収と年金給付額の比率）が低いこと、税制や私的年金の仕組みが年金受給を促す形になっていないことなどが評価を引き下げているという指摘もあります。

さらに持続性に関しては、少子高齢化に伴い高齢者人口割合が増加していること、平均余命の増加で公的年金の期待支給期間（平均余命と年金支給開始年齢の差）が長くなっていること、政府債務残高が大きいことなどにより低い評価となったと指摘しています

そして「日本では他国よりも早いペースで少子高齢化が進行し、平均余命も伸長している。公的年金では、現役人口の減少や平均余命の伸びなどの社会情勢に合わせ、年金の給付水準を自動的に調整するマクロ経済スライドが二〇一五年に初めて発動され、年金給付額の伸びは賃金や物価の上昇分以下に抑えられている」こともその理由と指摘されています。

《参考資料》

https://zuuonline.com/archives/125368

No153 健康がいちばん!

# 「痛み」とはそもそも何でしょう

## 生きていることを示すサイン

**■痛みとは**

私たちは「痛み」を感じることで、身体に何らかの異常や異変が生じていることに気づきます。もし、「痛い」という感覚がなかったら、危険を察知したり、回避することができず、ケガや病気を繰り返したり、命の危険につながることもあります。「痛み」は、体温、呼吸、脈拍（心拍）、血圧と並んで、私たちが生きていることを示す“サイン（バイタルサイン）”ともいわれ、私たちの身体や命を守る、生命活動に欠かせない役割を持ちます。

しかし、なかには「生命活動に必要ではない痛み」もあります。必要以上に長く続く痛みや、原因がわからない痛みは、大きなストレスになり、不眠やうつ病など、ほかの病気を引き起こすきっかけにもなります。このような場合は「痛み」そのものが“病気”であり、治療が必要です。

**■痛みの種類**

ひとくちに「痛み」といっても、原因や状態によってさまざまです。

「痛み」は、その原因によって大きく三つに分けられます。長引く痛みなどでは、この複数の原因が関与していることが多いです

①炎症や刺激による痛み（侵害受容性疼痛）　切り傷、やけど、打撲、骨折

②神経が障害されることで起こる痛み（神経障害性疼痛）病気などによる神経の切断・圧迫など

③心理・社会的な要因によって起きる痛み　人間関係のストレスなど

**■痛みの慢性化**

急に痛くなり、短期間でおさまる痛みは「急性の痛み」、一～三ヵ月以上と長く続く痛みは「慢性の痛み」といわれます。「急性の痛み」は、その原因となるケガや病気が治れば消えていくものですが、痛みが生じたときに適切な治療をせずに、そのまま放っておくと、痛みが別の痛みを引き起こし、「慢性の痛み」に変わってしまう場合もあります。

痛みは、交感神経の緊張と運動神経を興奮させ、血管の収縮や筋肉の緊張を起こします。その結果、血行が悪くなり、「痛みを起こす物質」の発生につながります。

通常、痛みが生じても、交感神経の反応はすぐにおさまり、血行が改善されて、痛みが鎮まります。しかし、痛みが長引くと、血行の悪い状態が続いて「痛みを起こす物質」が多く発生するようになります。

**■痛みの悪循環**

この「痛みを起こす物質」は血管を収縮させるため、さらに血行を悪化させ、また「痛みを起こす物質」が発生する、という“痛みの悪循環”を引き起こしています。

また、痛みが慢性化すると、痛みを引き起こした原因がなくなっても、痛みを取り去ることがなかなかできなくなります。

さらに、痛みが続くことで痛みにばかり注意が向きがちになり、眠れなくなったり、不安や恐怖からうつ状態につながり、ますます痛みにとらわれて症状が重くなるという悪循環に陥ることもあります。

痛みは慢性化する前に、適切な治療を行って早期に原因を取り除くことが大切です。無理な我慢は禁物です。痛みの悪循環を断つため、早めに医療機関を受診することが大切です。

痛みが長く続いたり、さまざまなストレスにさらされていると、本来、私たちが脳の中に持っている「痛みを抑える神経」の力が弱くなり、痛みを普通より強く感じたり、痛みが慢性化することがわかっています。

《参考資料》
http://toutsu.jp/knowledge/

# なるほど・ざ・新製品

## 「FCX4000シリーズ」新登場！

### フラットベッドカッティングプロッタ

### 試作、少量生産の後加工に最適

グラフテック株式会社（本社・神奈川県横浜市代表取締役社長　佐々木秀吉）は、このほどフルモデルチェンジした「ＦＣＸ４００００-５０ＥＳ」と、「ＦＣＸ４００００-６０ＥＳ」を発売開始しました。

この「ＦＣＸ４０００シリーズ」は、抜き型を使用せずに自由な形状でハーフカットや切抜きができるため、ＰＯＰやパッケージサンプルなどの多品種小ロット生産におけるコスト削減や納期短縮を実現するオンデマンド印刷時の後加工に最適なフラットベッドタイプのカッティングプロッターです。

特には、上位機種であるＦＣＸ２０００の技術を活かし、製品本体の剛性強化、ペンブロックの新規設計を行い、従来機に比べてより高品質なカットを実現。

盤面サイズは従来機に比べて拡張され、「ＦＣＸ４０００-５０ＥＳ」はＡ３ノビサイズのシートを二面付け、「ＦＣＸ四〇〇〇-六〇ＥＳ」は四面付けすることができ、複数のシートを同一の盤面で効率的にカットすることができます。

ＦＣＸ四〇〇〇は、オンデマンド印刷において多様化する市場ニーズへ迅速に対応していくための少量多品種生産に活用いただける加工装置として生産性を向上させる機能が充実しており、静音仕様でお客さまが導入しやすいモデルとなっております。

「ＦＣＸ４０００」の主な特徴は次の通り。

①本体、ペンブロックの新設計によるカット品質の更なる向上

②ＵＳＢメモリによるオフライン出力機能

③バーコードによるデータ管理機能

④進化した自動トンボ読み取り機能ＡＲＭＳ６・０搭載

⑤プラグインソフトウエア Ｃｕｔｔｉｎｇ Ｍａｓｔｅｒ四、グラフィックデザインソフトウェア Ｇｒａｐｈｔｅｃ Ｐｒｏ Ｓｔｕｄｉｏを標準装備

⑥罫引ツールと罫引機能の強化

詳細はホームページで

http://www.graphtec.co.jp/

第一六三回「グラフテック」